

事業所名

児童デイあったまある和戸

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

25日

法人（事業所）理念		「他者をサポートすることで自分が活かされる」という相互作用を生み出すことを信条とし、継続性・迅速性・柔軟性を重視した事業展開による社会貢献と、それを支えるスタッフの生活の充実をバックアップし、皆が幸せになる福祉を目指す。							
支援方針		日常生活における基本動作を習得し、社会生活を楽しくできるようサポートする。本人および家族が望む生活ができるよう、共に考えながら成長を見守っていく。 ・利用者が社会との交流を図ることができるよう、身体および精神の状況やそのおかれている環境に応じて、生活能力向上のために必要な訓練や療育を適切かつ効果的におこなう。 ・関係市町村及び地域の福祉サービス・保健・医療との綿密な連携を図り総合的なサービスの提供に努める。							
営業時間	事業所開所	9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし	
サービス提供時間	平日	13時	30分から	17時	30分まで				
	休日	10時	0分から	16時	0分まで				
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	保護者との連絡帳による体調のチェックと、学校等の状況を聞いての健康状態のチェック。 来所持の計熱、手洗い、うがい等での清潔保持（そのトレーニングも含む）・おむつ使用者の定時排泄での衛生保持。おむつからトイレ（便座）での排泄への移行トレーニング。 身辺整容に対する意識を高めるためのトレーニング（荷物整理、着衣や頭髮の整容などへの関心を高め、自身にて整容できるように伝えていく）							
	運動・感覚	身体を動かして遊ぶことで、自身の身体の位置や動かし方のコツをつかみ、体幹を意識して固有感覚の向上をはかる。また、手先足先を使い細かい作業への対応力をつけていく。「揺れる」「跳ねる」感覚を好む児童へ満足のいく感覚を提供しつつ、安全におこなえるようバランスや運動量をアドバイスしていく。 ・室内でも身体を動かして遊ぶ（ダンス、体操、柔らかいボールでの遊び） ・工作等で手先を使う ・公園遊具やアスレチックでの遊び ・トランポリンやブランコによる感覚統合の一助							
	認知・行動	ひとりひとりの感覚の特性を把握し、個別対応できるツールを考え（必要に応じて製作）それを用いて、本人がストレスなくものごとに対応できる環境を作る。 視覚支援や活動場所の区切りなど構造化を用いた認識しやすい環境を作ることで、不安を減らし理解を深める。 本人のペースを重視し、集団行動への参加は無理強いせず、スモールステップで徐々に促していく。							
	言語コミュニケーション	できる限りさまざまなコミュニケーション方法を用いて、本人の意思確認をおこなう（絵カード、ジェスチャー、手話、「やさしい日本語」等の理解しやすい語の使用での口話・文章伝達）。また、言語を用いないコミュニケーション方法の模索。 日常的に他者との関わりの仕方を学ぶことを、理解度にあわせて助言しながら本人が納得できるようサポートする。							
	人間関係社会性	相互理解や共同達成感が得られる活動（ゲーム・ごっこ遊び・共通の玩具を使った遊び・合唱・ダンス・読み聞かせや紙芝居の集団での鑑賞）など他者との関係を楽しめる活動をおこなう。 ソーシャルスキルトレーニング、交通ルールや社会規範の説明・訓練により社会性を育てる。							
家族支援	家族からの相談に対し、必要に応じて助言や関係機関の紹介などをおこなう。 保護者の交流会など情報交換の場を作る。			移行支援		進学・卒業の時期にスムーズな移行ができるよう関係各機関と調整をおこなう。 障害福祉サービスへの移行期には、移行先へ情報提供をおこない定着支援をバックアップする。			
地域支援・地域連携	地域協議会等の関係機関の集まりへ参加し、同業事業所・相談支援事業所と連絡をとりあってネットワークの確立に務める。近隣の保育園・幼稚園など子育て支援機関および町内会等との交流で互助関係を作る。			職員の質の向上		新入社員研修、定期研修のほか、より専門的な研修を外部講師を招いて開催。社内の情報共有の場や方法を増やし技術や知識の偏りをなくす。メンタルケア「こころの健康づくり」社内プロジェクトの推進			
主な行事等	・季節の行事（節句、ハロウィン、クリスマス等） ・外出イベント（公園、図書館、児童館、博物館等） ・誕生日会 ・避難訓練（年2回） ・主催イベントあったまある音楽 ・外部イベント（地域の祭り、文化祭など）への参加								